



高城神社



写真上／「諫早は亀に守られているまち」と菖蒲さん。
本殿の屋根の四方には亀の守り神がいた。

高城神社に飾られている諫早家の甲冑。
甲冑には諫早家の紋「上り藤」が見られる。

歴史と文化が色濃く残る

諫早市

諫早公園には、まちの始まりの物語が眠っている。

南北朝時代、「伊佐早」地方では多くの土豪が戦いを繰り返していた。それを統一したのが西郷尚善である。以降、約百年にわたって伊佐早の地は西郷氏によって治められたが、一五八七年、豊臣秀吉の島津攻略の命に背いた四代目信尚の代に、龍造寺家晴によって滅ぼされてしまう。その後、二代目龍造寺直孝は自らの姓を「諫早」に改め、佐賀藩諫早領となり、幕末までこの地は諫早家によって治められた。

れた城であることがよく分かる。本丸址には雄大なクスノキの葉が空を覆うように広がり、長い歴史を物語っていた。

今回、ガイドを務めてくれた地域おこし協力隊の菊山達也さんはこう話す。「高城は別名、「亀城」とも呼ばれていました。それは、城のすぐ下を流れる本明川の山下淵にいる大亀が城の下に潜り込み、敵が来ると、亀が手足を伸ばして山を押し上げるので、敵が攻められなかった、という伝説があったからなんです」。本丸址には七代目を祈って建立した「亀の塔」が見られた。この石塔を地元の人々は「がめんとさん」と呼んでい

るといふ。

公園のすぐ横には、諫早家初代・龍造寺家晴公を祀っている高城神社がある。諫早は良質な石が採れることから、昔から腕の良い石工が多くいたそうので、境内では鯨が乗った大灯籠や逆立ちした狛犬など一風変わった石細工が目を見張る。

宮司の菖蒲公治さんは家晴公に関する文献はほとんど残っていないとしながらも、面白い話を聞かせてくれた。「家晴公はとにかく戦が上手な人でした。そして温情のある人だったのだと思います。ここから一・五キロほど離れた所に西郷という地域があるのですが、ここは龍造寺家に攻められた際、逃げ出した西郷家の女性や子どもたちが住みついた場所なのです。家晴公は、敵を根絶やしにするのではなく、「どこにも行けません」とする女性や子どもたちを『にしごう』と読み方を改めさせて、領内に住む許可を出したのです。たった一つのエピソードで、歴史上の人物がわかりやすく生身の人間として感じられる。家晴公の人格が偲ばれた。

諫早眼鏡橋

全国で初めて国の重要文化財に指定された二連アーチの石橋。1957年に起きた諫早大水害で、頑丈過ぎるゆえにがれきをせき止め、水の流れが変わり被害を拡大したため、1961年に諫早公園へ移築。現在はその優美な姿で訪れる人を魅了している。



地元の人に「がめんとさん」と呼ばれ親しまれている「亀の塔」。

諫早公園本丸址のクスノキ。



諫早市地域おこし協力隊の菊山達也さん。
柔らかな語り口で諫早の魅力を語ってくれる。